

年 組 名前：

偽情報「正しい」47%

SNSで流布総務省調査

総務省は13日、交流サイト（SNS）での流布が社会問題化している偽・誤情報の認識に関する初の実態調査の結果を発表した。実際にあった15種類の偽情報のうち、一つでも見聞きした上で「正しい情報だと思う」「おそらく正しい情報だと思う」と誤認した人は計47・7%に上り、多くの利用者がうそとは気づかずだまされる実態が明らかになった。

「イワシやクジラの海岸への大量漂着は地震の前兆や影響である」といった偽情報を取り上げて調べた。接した人の25・5%は家族や友人にLINE（ライン）で伝えたり、SNSに書き込んだりして拡散させたことも分かった。

偽情報の判断に関し「どちらともいえない」が25・6%、「誤った情報だと思う」「おそらく誤った情報だと思う」は計26・7%だった。

偽情報を拡散した理由で最も多かったのは「驚きの内容だった」の27・1%だった。「興味深いと思った」や「他の人にとって有益だと思った」といった回答も20%を超え、直感的に反応した様子が見える。

偽情報の理解力に関する認識では、全回答者の87・8%が「重要だ」「どちらかと言えば重要だ」と答えた。一方で判断力を高めるための取り組みを積極的に実施していない人は75・3%に達し、うち50・9%が「取り組み方が分からないから」と答えた。

アンケートは3月31日から4月2日にかけて、全国の15歳以上の2820人を対象にインターネットで実施した。

(2025年5月14日付 山梨日日新聞1面)

問1 総務省の調査で、偽情報を誤認した人は何%で、その情報を拡散させた人は何%いましたか。

・偽情報を誤認した：.....% ・偽情報を拡散した：.....%

問2 総務省が、この調査を行った目的(理由)を答えてください。

.....

問3 あなたが、SNSやインターネットを利用する場合に、気を付けていることを書いてください。

.....